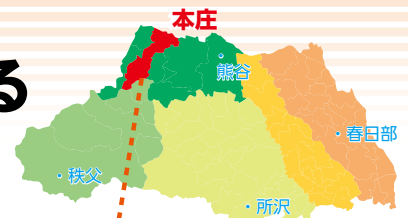


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②⑤

本庄市 吉田 信解 市長 (46歳)



伝統を活かしつつ、新しい本庄市の発展を図る吉田 信解市長

引き継がれる「宿場町本庄」のDNA

本庄市には、旧中山道最大の宿場町であったという歴史があります。よそから入ってくるものを拒まない風土があるともいえるでしょう。市内の代々続いている商家が婿取りをして続けていることが多いせいなのか、「本庄は婿でもつ」という言葉まであります。商人が栄えた時代の名残なのかもしれません。

私自身も、当市の寺の息子として生まれ、地域に根差した寺のなかに身をおき、小さな頃から多種多様な人たちに囲まれ、育てられてきました。やはり地域の経済、商店、農



本庄早稲田駅前にあるホームセンター大手のカインズ本部。2012年に群馬県高崎市から移転した。

家、工場が元気じゃないと、地域社会は元気じゃないと肌身に感じて思います。

この感覚からすると当市は、地理的なポテンシャルを生かしつつ、どんどん新しいものを取り入れていくべきであり、新しいものといままであったものとを融合させながら、まちを発展させていくことが、本来のあるべき姿なのではないでしょうか。

2004（平成16）年には、当市にとって念願であった新幹線新駅である、本庄早稲田駅が開業しました。この新駅設置の背景には、宿場町本庄のDNAが脈々と息づいています。求心力のある交通の要衝として、まちを発展させていきたいという過去からの流れがあるのです。

国内最大級のアイスクリーム工場を誘致

私が市長の職を拝命したのは、ちょうど本庄早稲田駅周辺の開発がはじまった頃のことでした。そのため、まずは駅のポテンシャルを生かした企業誘致に全力投球し、そのうえで、まち全体が稼げるように変えていきたい、そういう思いで努めてきました。

その後、駅周辺の開発事業は、「本庄早稲田の杜」と命名され、紆余曲折はあったものの、ようやく今年3月に予定保留地全てを売却もしくは、定期借地という形で処分することができました。

具体的成果としては、大型スーパーのベシアや、ホームセンター大手のカインズ本部（本社）などの進出があります。とくにカインズについては、企業の本社の移転ですから、新幹線駅開業の効果が出たものと感慨深いものがあります。そのほか、まだ土地取得のみにとどまっているものの、国内優良企業

の進出が予定されています。

また、工場誘致については、2010（平成22）年に氷菓「ガリガリ君」で有名な赤城乳業の新工場（本庄千本さくら5S工場）を誘致しました。国内では、日本のアイスクリーム生産量の約10%を製造する、最大級の工場です。ほかにも稼働前ではありますが、ウォーターボトル「クリクラ」を生産しているナックの工場誘致も決定しています。

この両工場には、工場見学の実施や（ナックは予定）、知名度の高いキャラクターの起用（赤城乳業＝ガリガリ君、ナック＝クレヨンしんちゃん）という共通点があります。最近の産業観光ブームもあり、当市の交通の利便性を活かした、人を呼び込める観光策を現在検討中です。雇用やイメージアップという点で地元が大きく寄与してくれるものと期待しています。

伝統を生かした中心市街地活性化策

経済活性化のもうひとつの柱は、疲弊してしまった中心市街地の活性化といえるでしょう。区画整理を大規模に進められる時代ではない以上、身の丈に合ったまちなか居住を進めていかなければなりません。これからは、公共施設をまちなかへ集約化するなど、人為的な人の流れづくりを行っていきますが、同時に、いま以上に観光に力を入れて、古い歴史的な資産を活用しながら、まちなかに人



本庄市の絹産業遺産のひとつである、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫。国の登録有形文化財に指定されている。担保として預かった絹や繭を保存するために建造された。

が戻ってくるような仕掛けづくりを進めていきます。これは、大企業を誘致したり、大きな工場を誘致したりということとは全く異なる話です。いまの若い人たちは、古いものを活かすことに興味を示す人が結構多いのです。たとえば、古い蔵を活かしてレストランとホールを経営し、周辺に住宅を造成するという新しい土地活用も出てきています。

幸い当市には、世界遺産に登録された富岡製糸場と縁のある絹産業遺産も点在しています。これを機に富岡市、藤岡市、伊勢崎市、深谷市や地元企業、NPOなどと観光連携を図るべく調整しているところです。まちが昔から持っていた伝統を大事にしながら、まちの魅力をつくっていく。これも大きな地域活性化のための経済施策といえるのではないのでしょうか。

最後に私のモットーについてお話しします。私のモットーは「自ら」です。「自ら」動かなければ、なにごとにおいても道は拓かれません。これからも私は、市の職員とともに「自ら」動き、市民のみなさんと手を携えながら、新しい本庄をつくっていきたいと思います。

さて、今回は、お互い若手市議会議員として活動していた頃からの同志で、見識ある畏友、松本武洋和光市長にリレーをつなぎます。

本庄市の概要

人口（平成22年国勢調査）	81,889人
世帯数（同上）	32,217世帯
平均年齢（同上）	45.4歳
生産年齢人口比率（同上）	63.7%
面積（同上）	89.71平方キロメートル
名目市内総生産（平成23年度市町村民経済計算）	2,847億9,500万円
事業所数（平成22年工業統計）	161事業所
製造品出荷額等（同上）	3,356億5,663万円
事業所数（平成24年経済センサス）	3,702事業所
年間商品販売額（平成19年商業統計）	1,310億7,300万円